

武者寄橋 28



武者寄橋

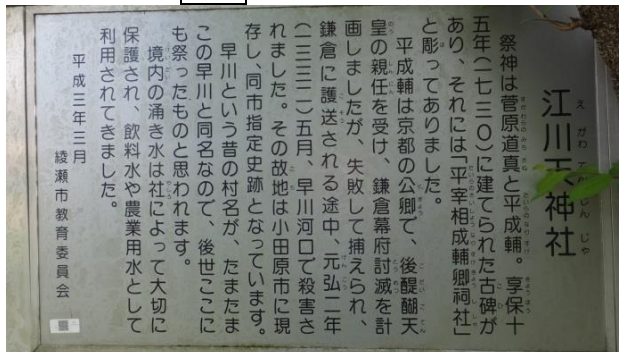
武者寄橋から市役所方向には、【江川天神社 29】があります。

この江川天神社は、享保15（1730）年建立の石碑があったとされています。祭神は菅原道真と平宰相成輔です。

平成輔は、後醍醐天皇の下で鎌倉幕府を倒そうとしましたが失敗し、小田原市早川で殺害されました。同じ早川という地名から当地に祀られています。

菅原道真は、平安時代前期の学者・政治家として活躍しました。現在では、「学問の神」として崇められ、「合格祈願、学業成就」の高いご神徳があるといわれています。

江川天神社 29 江川天神社説明板



江川天神社



江川天神社

武者寄橋から約100mで【古矢橋30】になります。



古矢橋

古矢橋を渡ると【城山公園31】です。

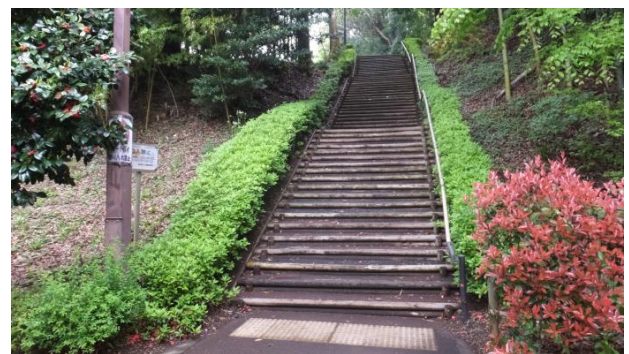
城山公園は、中世の山城跡「早川城跡」（県指定）で、鎌倉幕府の御家人渋谷一族ゆかりの城といわれています。渋谷重国の築城と伝承が残る早川城跡の調査では曲輪や土塁、堀切、物見塚などが発見されています。物見塚上には東郷氏祖先発跡地碑が建てられています。また、「早川城山遺跡」からは奈良三彩小壺の蓋（市指定）が出土しています。

公園内には、バーベキューのできる炊事棟や66種類約500本のバラが香る花木園、市内最長のローラースベリ台のある遊具広場があり、6月初旬から日本庭園となりのわさび田跡地ではほたるが見られます。

また、3月下旬からは桜の広場で「かながわの花の名所100選」に選ばれた桜が鑑賞できます。

（早川城山遺跡から出土した「奈良三彩小壺の蓋」及び「土器」は市役所3階に展示しています。）

城山公園31 城山公園案内図



早川城跡説明板



堀切と土塁説明板



東郷氏祖先発跡地碑

堀切と土塁



縄文時代の城山案内板



城山公園遊具



古矢橋から約400m行くと【瀬端橋32】になります。
 左側には、【綾瀬西高等学校33】がありますが、宮久保遺跡で12世紀後半から14世紀まで続いた掘立柱建物などの遺構群が発見されています。
 高校の敷地内から、今から約1,300年前の集落が見つかりました。ここからたくさんの竪穴住居や掘立柱建物が見つっています。
 中でも注目されるのは井戸跡で、文字が書かれた板や木簡（県指定）が出土しま

した。木簡には天平5（733）年の銘が記載されていたことと、「鎌倉郷鎌倉里」という地名が書かれていた他、郡の稲に関係する内容が記載されていました。

この遺跡からは、「菅原頭長」を指す文字が刻まれた、壺の破片が出土しています。愛知県渥美半島で作られた壺で、中央貴族と深く結びついていた土地であったと考えられます。

瀬端橋 3 2



綾瀬西高等学校 3 3



瀬端橋から綾瀬西高校グラウンドの東側方面に【**五社神社** 3 4】があります。

五社神社の祭神は天照大神など五柱の神々です。慶安3（1650）年の銘がある神社の由来を書いた縁起によると、日本武尊（やまとたけるのみこと）が東征を終え帰洛する時、この地に地神五代を祀ったのが起こりとされ、鎌倉時代には綾瀬市中心と一部海老名市・座間市・大和市・藤沢市へと広がる渋谷荘の総鎮守だったといわれています。

境内には「日本武尊腰掛石」や神社の釣鐘が沈んでいるとの伝承がある「尾の井（ヒストリー-5）」があります。

江戸時代後期の本殿、江戸時代前期から大正時代の棟札及び樹齢約400年と推定される御神木の「椎の大木」は市指定文化財です。

ご利益は、所願成就・五穀豊穰・商売繁盛・国家安寧・安産祈願などといわれています。

五社神社 3 4

五社神社鳥居

五社神社





五社神社椎の大木



日本武尊腰掛石



※五社神社から富士山・大山などが一望できます。

【虚空蔵橋35】に向かうと、【龍洞院36】があります。

龍洞院は、曹洞宗のお寺で、本尊は木造聖観音菩薩像です。台座には大塔宮（後醍醐天皇の皇子護良親王）のものと伝えらる御歯を納めた舍利箱が納められています。昭和9（1934）年に大黒堂を建立し、大黒像二軀が祀られています。

龍洞院36 龍洞院





大黒像

【虚空蔵橋35】を渡ると【早園地区センター37】があります。

早園地区センターは、昭和46（1971）年3月まで「綾瀬小学校早園分校」として使用していました。当時の門や校舎があります。

市兵衛谷の「おいてけ堀(ヒストリー6)」は、早園地区センターの裏あたりと思われます。

「おいてけ堀」の由来は、魚がよく釣れるところで、魚が釣れてビクいっぱいになって帰ろうとすると「置いてけ置いてけ」ということからきているという。綾瀬の民話にもなっていますが、きつねがかかわっていて、地名の由来というより何か不思議な、恐ろしい場所といわれています。

虚空蔵橋35

矢印は「おいてけ堀」の水路合流地



早園地区センター37

分校当時の面影を残す門



早園地区センター



虚空蔵橋から約100m行くと内藤橋です。

内藤橋を山側（西）方面に行くと【お銀さまの生家38】があります。

北方面に行くと【第六天神社39】があります。

祭神の面足尊(おもだるのみこと)と惶根尊(かしこねのみこと)は、神代七代中第六代の神で面足尊は男神、惶根尊は女神とされ、第六天神社は夫婦の神です。嘉永6（1853）年の棟札が残されています。

第六天神社39 第六天神社説明板



第六天神社



次に笠間家の【ギンモクセイ40】があります。市指定文化財です。

「かながわ名木100選」にも選定されました。推定樹齢約130年です。

開花時期は9月下旬から10月上旬です。

ギンモクセイ40



次に【長泉寺4 1】になります。

長泉寺は、曹洞宗のお寺で、本尊は江戸時代造立の木造釈迦如来像です。渋谷氏一族の菩提寺といわれ、一族の供養塔と伝えられている中世石造物が残っています。



長泉寺4 1 長泉寺案内板



目久尻川の対岸は小園地区になり、お銀さまの嫁ぎ先推定地や【お銀さまの墓4 2】があります。

お銀さまは、三河国（愛知県）田原藩主三宅康友に気に入られ、四男友信を生まれました。天保2（1831）年、友信の命を受け、藩士の渡辺華山(ヒストリー-7)がお銀さまを訪ねて来た様子は『游相日記』(ヒストリー-8)に描かれています。

お銀さまの墓4 2 お銀さまの墓案内板

お銀さまの墓

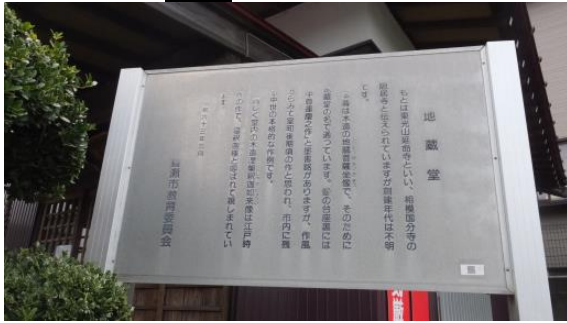


お銀さまの墓から北方面に行くと【小園地蔵堂43】があります。

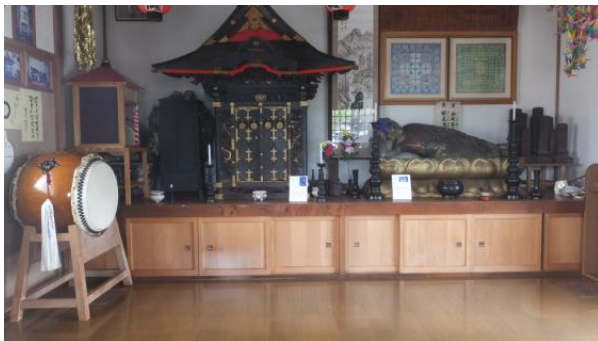
この地蔵堂は、もとは東光山延命寺といい、海老名市の国分寺の隠居寺だったそうです。

本尊の木造地蔵菩薩像は室町時代に造立された市内最古の彫刻で市指定文化財です。4月の「地蔵堂花まつり」の時に開帳されます。

小園地蔵堂43 小園地蔵堂説明板



木造地蔵菩薩像



小園地蔵堂から北方面に行くと【寺子屋師匠の墓44】があります。

この墓は、江戸時代から明治時代にかけて、小園地蔵堂を校舎として寺子屋が開かれ、弟子が村を越えて学びに来ていました。その師匠であった金子一族の墓が弟子により建てられました。

寺子屋師匠の墓44 寺子屋師匠の墓説明板



寺子屋師匠の墓



寺子屋師匠の墓の北方向に、【子之社45】があります。

子之社は、慶長10（1605）年創建。祭神は大国主命（おおくにぬしのみこと）（大己貴命）です。本殿・棟札と絵馬・奉納額は市指定文化財です。

鳥居は両部鳥居で市内唯一です。「控柱」と呼ばれる補助がついているところに特徴があり、代表的なものとして、広島県の『厳島神社』の大鳥居が有名です。

大国主命といえ、縁結びで知られる島根県の『出雲大社』の祭神です。

子之社45

子之社参道



子之社



子之社両部鳥居



子之社を北方面に行くと【お伊勢宮の森46】があります。

この森は散策路などはなく、自然に近い状態の森です。

お伊勢宮の森46



お伊勢宮の森案内板

ここから西、北方面に行く道路は【古東海道47】で、江戸時代以前の幹線道路という伝承があり、西に小園橋へ、北は赤坂(ヒストリー9)にいたります。

渡辺崋山もお銀さまの家に行くのにこの道を通ったと考えられます。

古東海道47 古東海道説明板



古東海道 (赤坂から厚木方面) 右方向



古東海道 (赤坂から厚木方面)



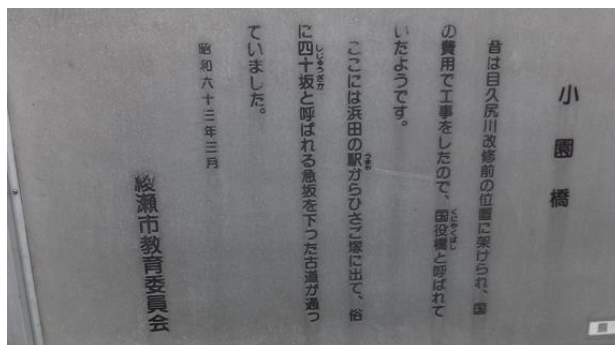
古東海道 (小園橋から赤坂方面)



古東海道を厚木方面へ行くと【小園橋48】になります。

小園橋は、渡辺崋山が書いた絵入り紀行文の「游相日記」の図中にある橋が、この小園橋ではないかと思われています。厚木へ向かう渡辺崋山を皆が村境で見送ったと書かれています。また、国役を課して工事を行ったことから国役橋ともいわれていました。

小園橋48 小園橋説明板



小園橋から下流 (吉岡) 方面

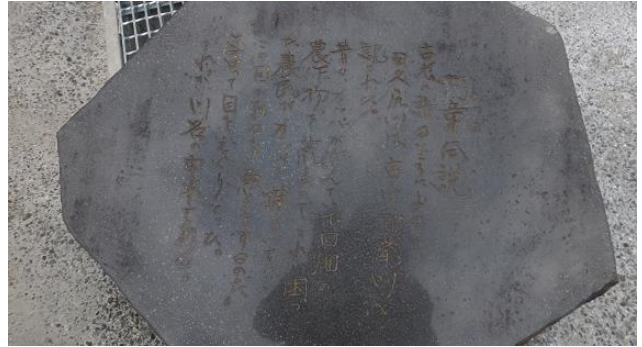


小園橋付近には、目久尻川の名前の由縁の【河童像49】や目久尻川を南に約100m行くと右岸側に【親水護岸50】、約150m行くと左岸側に目久尻川の【日時計51】があります。目久尻川改修時につくられたものです。

河童像49 小園橋河童像



説明板



親水護岸50 海老名方面



吉岡方面



日時計51 日時計説明板



日時計



日時計 辰（現在の午前 8 時頃）



巳（現在の午前 10 時頃）



（仮称）綾瀬スマートインターチェンジ **5 2**

下原橋より東京方面



現在、小園地区では、東名高速道路の【（仮称）綾瀬スマートインターチェンジ】設置のための工事が行われています。

綾瀬市の目久尻川流域には、旧石器時代から令和まで約 4 万年、人々の生活の営みが凝縮されています。ぜひ、あやせ目久尻川歴史文化ゾーンを散策してみませんか。

ヒストリー（資料編）

1 中原街道（P. 8）

中原街道は武蔵と相模を結ぶ街道として中世（鎌倉・室町時代）には成立し、小田原北条氏が本格的な整備を行い軍用道路として使用しました。

天正18（1590）年の徳川家康の江戸入りでは、東海道がまだ整備されていなかったため、平塚からこの道を利用し、慶長元（1596）年、平塚に中原御殿を設け、鷹狩や駿府との往来時に利用していました。この中原御殿に由来して中原街道と呼ばれるようになったといわれています。また、中原で醸造された「酢」を江戸へ輸送する道路として利用したため「御酢街道」とも言われていました。

その後、東海道が整備されると大名行列などは東海道を通るようになりましたが、生活道路としてだけでなく、大名行列など煩わしさを嫌う庶民や商人の往来、そして赤穂浪士も東海道を避け、中原街道で江戸入りしたと伝えられています。

2 こまげたおせん（綾瀬の民話、伝説から）（P. 8）

昔、吉岡に臆病者の善さんという人がいました。

ある日、善さんは、葛原（藤沢市）の親戚の家の結婚式に招かれ、夕方、遅くなって、暗い野道を親戚の人に芝原（吉岡）先まで送られてきました。

首には、引き出物のごちそうを縛り付け、家へと急ぎました、

弁天塚の手前まで来ると、道端に大きな傘をさし、その下に何匹もの狐が首をそろえて善さんの帰りを待っていました。

善さんは、「やああ」と大声を上げ、狐にとびかかり「こんちくしょうめ」とどなりながら取っ組み合いの大喧嘩となりました。

しかし、殴っても蹴りつけても相手は弱りません。

「かなわないな」と思い、家に逃げ帰りました。

近くの初さんの家に行き話をしたところ、「ようし、それじゃすぐ行ってみてこべえ」と、ちょうど居合わせた、本家の美之さんの2人が提灯を持って行ったところ、傘と見えたのは日よけの桑の木でした。

善さんの風呂敷が引かかかっていて、ごちそうが散らばり、血がいっぱいついていました。

これではいくら力があっても勝てるものか。と二人は笑って帰りました。

それからしばらくしたある日、村の源さんが、使いの帰り道、サイボウ塚を通りかかると後ろから下駄の音が「カラコロ、カラコロ」するので振り向いてみると、音が止み、また歩き出すと音がするので早く歩くと早足でついて来るのです。

「誰だか知らないが先にやっちなえ」と思って、畑の中に飛び込み通り過ぎるのを待っていた。するときれいな娘が「にやにや」笑いながらのぞきこんだので、源さんはびっくり仰天、一目散に家に逃げ帰りました。

近所の人に話をしたら「うちも同じようなことがあったよ」と話した。そのころ、このような娘を見かけた人が多く、誰となくサイボウ塚には「おせん」がでるようになったという様になったそうです。

3 吉岡遺跡群（P. 9）

綾瀬浄水場建設時に発見された旧石器時代の遺跡で、調査結果では2つの重要な発見がありました。

1つ目は、約37,000年前のもので、県内最古級の石器群です。

2つ目は、約23,000年前の人々の生活面から当時の人々の具体的な移動状況が解明できる資料が発見できました。具体的には、吉岡遺跡群で作られた石器が、約2km離れた用田鳥居前遺跡（藤沢市）に持ち込まれたことです。吉岡ムラの人々が狩りに出かけ、用田ムラでひと休み・・・そんな当時の人々が生活していたかもしれません。

4 七人塚・えんこら坂（綾瀬の民話、伝説から）(P. 11、P14)

むかし吉岡の芦ヶ久保にお箸を作る職人がいました。

あるとき、お箸の材料である木材の調達に困り、幕府の天領である吉岡の神明社の「御林」の杉の木を切ってしまいました。

家族を食べさせるために仕方なく御林に手を出してしまったのですが、なにせ、幕府の直轄地ですから、「木一本首一つ」といわれるほど、厳しく管理されていました。

そのうち、職人の行為は発覚し、役人につかまってしまいました。

当時は連座制で、本人だけではなく、家族全てが罪人として連れて行かれました。

いよいよ処刑されるというときに、職人一家が登った坂で、わずか300mばかりですが高さ35mも急こう配であり登るのが容易ではありません。

そのことから「えんこら坂」と言われているそうです。

村人たちは職人一家の助命を願い出しましたが、聞き入れられず、近所の済運寺の住職にお願いに行きました。

しかし、住職は旅に出ていて、不在。使いの者を出して急遽、住職を呼び戻しましたが、処刑に間に合わず、職人一家は悲しい結末となってしまいました。

その職人一家を葬った塚を「七人塚」と呼んだそうです。

5 尾の井【おもいど】（綾瀬の民話、伝説から）(P. 21)

むかし、むかしから五社神社は、村の鎮守でした。

いろいろな作物が実り、村の人々が病気にもかからず、大人も子供も皆元気なのは、鎮守様がいつも守ってくださるからで大変有難いことだと思っていました。

そのお礼に、村中に響き渡るような鐘を造り、神様に供えました。

神主さんが、朝夕またお祭りやお祝いなどの時に「ゴーン、ゴーン」とつくと、村中に響き渡り、村の人々はお宮にきては、大変喜んでいました。

ある年の秋のこと、この村に台風が襲い、大雨は木を倒し、家もつぶれる大嵐の夜、お宮の鐘楼にかけてあった、つり鐘は落ちてゴロゴロとこころがり、おもいど（尾の井）の中に落ちてしまいました。

神様に、せっかく造って御供えした鐘が池の中に落ちたので、村の人達は大勢で長い綱でその鐘を固くゆわいて、皆で「えんやこら、えんやら」と引っ張りました。

皆が引っ張るほど、鐘は下の方に沈んでしまうのです。

さあ、困ったもんだと皆集まって相談しました。

これは神様は鐘が嫌いなので、いくら引っ張っても駄目なんだ。

それではと、鐘の代わりに太鼓を造り神様に御供えしました。

それからは村の祭りなどのたびに、「ドーン、ドーン」と神主さんが太鼓を打ち鳴らして村中に知らせるようになりました。

「その鐘は今でも池の中に沈んでいるのだらう」と池を見に来る人が絶えないといひます。

6 おいてけ堀（綾瀬の民話、伝説から）(P. 23)

昔、早川の村の北の方（現在の小園団地）の川上の小園村から流れ始めて、流れ出した水がだんだん川となり、目久尻川に流れ込んでいます。その一番川下より400mぐらい上流の所は、四方が山に囲まれた田んぼで、その田んぼの中に大きな杉やヒノキが生えていました。

その中を川が流れ、上手には草や木が生え、昼間でも薄暗いところがありました。

川幅も広く水の流れが緩やかで、フナやハヤ、ウナギが集まってよく釣れました。

ある夜のこと、釣り好きの小父さんが夜釣りに出かけました。

釣れるわ、釣れるわ、たちまち魚籠（びく）一杯になりました。

夜も更けたので、帰ろうと腰を上げたときに、どこからともなく「置いてけ、置いてけ」と叫ぶ声が聞こえてきました。

小父さんは、魚籠（びく）の中をのぞくと、なんとあんなに釣った魚がない、小父さんは、

魚籠（びく）も竿もぶん投げて、真っ青になって家へとんで帰りました。

それから「あそこには悪い狐が住んでいて、人をだまして魚を取ってしまうのだ。」と言うようになり、誰もそこには行かなくなっていました。

7 渡辺華山 (P. 25)

国道 246 号線の起点である三宅坂の「三宅坂小公園」が江戸時代、三河田原藩の屋敷でした。そこで渡辺華山が生まれました。

三河田原藩家老で蘭学者だったが、経済的に豊かでなく、生活のために絵画を学びました。

8 游相日記 (P. 25)

渡辺華山による相模小旅行の絵入り自筆紀行文といわれています。

9 赤坂 (P. 28)

この地名の赤坂は小園の赤坂を指しますが、この古道（矢倉沢街道）を東に行くと江戸赤坂に行きます。江戸時代の赤坂は、大名屋敷や武家屋敷が建ち並んでいました。これは徳川家康が江戸城に入城した際、赤坂周辺に赤坂見附門を設け、台地には紀州徳川家の上屋敷をはじめ大名屋敷を、赤坂見附門近くの低地には藩士の屋敷を置き、江戸城の西側の防御としたためです。

三二情報

小園の「矢倉沢往還」**53**が東海道になっていた。

文久 2（1862）年に生麦事件が起こりました。

江戸幕府は、日本人と外国人の接触のおそれ、事件を未然に防ぐために東海道の付け替えを計画し、品川宿から平塚宿の区間を矢倉沢往還の赤坂御門から酒井宿（厚木市）までの区間に付け替え、それから先の平塚新宿（平塚市）で東海道に合流するルートに付け替える予定でしたが、慶応 3（1867）年に大政奉還となり、東海道の付け替えは実現しませんでした。

四十坂**54**に関所があった。

小園橋から海老名市国分が上がっていく坂を四十坂（しじゅうさか）といいます。

坂の名称の由来は、昔ここに関所が設けられ、銭四〇文を取って通行させていたといわれています。昔の古東海道の道筋であったともいわれています。

生涯学習課では、あやせ目久尻川歴史文化ゾーン推進のための作業を行っています。今回御紹介する内容は、収集した資料の一部です。

令和 2 年 5 月

編集・発行 綾瀬市教育委員会 生涯学習課 市史文化財担当 TEL0467-70-5637